
神様と転生！決闘録

zerokami00

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様と転生！決闘録

【Nコード】

N0845R

【作者名】

zerokami00

【あらすじ】

世界に消された男が神様とデュエルモンスターズの世界で暴れまわる話。主に神様が暴れます
オリジナルシナリオを突き進むときもある。

神様が暴れて俺、苦勞。決闘録！

平凡に生きていた。世界から消された俺は神様と転生！さあ、満足しようぜ！？

不定期ですが、暖かい目をお願いします。人物紹介

主人公名

秋雨楚良

性格

どんな状況にも対応することができ。結構優しい苦勞人。希に禁止ワードを言っちゃったりするオチャメ君

好きな言葉は

『満足しようぜ』

使用デッキ名

ジェムナイト

満足

ヒロイン1名

カミちゃん
神

性格

神様だけに傲慢だったり慢心したりすることがあるが、精神的直接攻撃には脆い

使用デッキ名

？

では、よろしくお願ひします

第一話 『神様はメンタル攻撃に弱かった!?』

「・・・起きなさい!!」

怒声を聞き、目が覚めた。見知らぬ白い部屋に、俺は何処かで見ただような私服を着せられ横たわっていたのだ。

目の前には黒いゴスロリ少女

「目覚めたわね? 楚螺・・・」

「えっ・・・誰ですか?」

素朴な疑問。さっきまで家にいたのだが?

「私は俗に言う貴方たちが崇め奉る『神様』なのよ!」

神様が俺になんのようなやねん! 夢なら早よう、覚めれや!!

「あっ! ちなみに夢じゃないから、現実だから!」

えっ、心読まれた!? そんな

「えっ、心読まれた!? そんな」(棒読み)

「ああ、ガチなんかい!?!」

「ガチもガチ! モノホンよ!?!」
自分でガチとか言うなよ。

「じゅめんなさい……(暗)」

「ええ！？何、泣きそうになってんの！！」

「カミちゃんは強い子……カミちゃんは、強い子……」

ええ、神様心弱くね。打たれ弱くね？マウンドに立つ前から監督に、お前はコントロールが無いからって言われて使われないクルーンのようにだ。

「ええと……カミちゃん！？」

「ふえ！？べ、別にカミは気にしてないんだからね！！」

「なんだ。ツンデレか？」

「ツンじゃない！！デロンデロン、間違えた！デレデレだ！！」

「でえ、そのカミちゃんが俺事私または僕に、なんのようかな？」

「実はで〜す〜な！貴方を間違えてアカシック・レコードから消しちゃった カミちゃん！大失敗！！てへえ！！」

……消しちゃったはスルーで

「アカシック・レコードってアレか？」

俺たちの頭上をゆっくりと回る円盤。

「(涙)記憶というデータの集束場所なの……データの計算ミスにより貴方は世界から消えてしまった！」

へえ〜・・・

「ああ、転生フラグか・・・」

カミちゃんはそれに対して聞きたい言葉を答えてくれた。

「貴方がある世界に転生してあげる！」

「もう、決まってるんだな!？」

「空気が在るとこしか選べなくて・・・。その代わりにできる限り私がサポートするから、ね？」

カミの前の扉がゆっくりと開く。向かう場所はどこの世界だ？

「遊戯王やったことあるよね？」

「えっ、まあ？まだやっていますけどカード収集は・・・」

「んじゃ、GX世界へ！レッツ！ゴー!!!!」

異世界へ！フライハイ!!!

第二話『Sinnサイバーエンドドラゴン+リミッター解除は鬼畜の極み!』

ソラside

そこは海馬ランドの中央。俺はデッキを持ち、空を眺めていた。

「……マジカー！本当に夢じゃないんかい!？」

「だから夢じゃないって……言ったじゃん」

カミちゃんが白い教官服のようなモノを着て

「あんたは教官なのか？」

「うん！カミちゃんは理事長なんだよ！」

「ちょっと待て！俺の記憶が正しければデュエルアカデミヤは海馬セトが理事長だったはずだが」

「世の中すべてコレよ?」

右手の人差し指と親指で円を作って見せた。この子黒!？

「まあ、とにかく行くわよ。理事長推薦とはいえ、試験はちゃんと受けないと」

少女体型に襟を捕まれ、ひっぱられる俺。恥ずかしい

「受験番号1111はどこデスーノ!？いくら理事長推薦だーって遅刻は許されないノーネー!」

試験管の席でマイクに向け怒声をするクロノス。そこへ少女は俺をデュエル場へぶん投げ入れた。

「遅れたー・・・クロノス教諭！」

俺の気絶を眼中にないようで彼女はクロノスと話をしている。

「試験はもう終わりましたータ！！いくら理事長の推薦だからって無理でスーノ」

「・・・私の言う事を聞けないのですか？クロノス・・・」

「うっ！？わ、わかりませーた。そのかわりに・・・くふ！私達が誇るカイザー丸藤亮にこのデュエルをまかせませーノ！！」

「いいよ！その代わりに勝ったら彼はイエロー飛びのブルーだからね！！」

「カイザー亮！お願いしまスーノ！！」

「起きなさい！！楚螺！！」

カイザー亮が階段を降り、デュエル場へと降り立った。

楚螺はというとやっと目を覚ましたが、現状が理解ができない！！

「これはどういう事だ、カミちゃん！？」

「見ての通り、あなたの相手は丸藤亮よ」

「なぜだ。めんどくさいなあ・・・」

「楚螺、頼んだわよ！！」

楚螺がカミちゃんから貰ったデュエルディスクを装着し構え、デッキをセットした。

「お互い面倒ごとに巻き込まれやすい体質のようだな」

丸藤亮がこちらに気を使って話かけてくれ、俺はそれに返答した

「まあ、しょうがないですよ。ちゃっっちゃとはじめましょう!」

「デュエル」

「先行はカイザーからデスーノ!」

カイザーlife4000

手札6

「理事が推薦するほどの力、どれほどのモノか測らせてもらうぞ!
!俺は手札のサイバードラゴンを三体を融合!!現れる、サイバー
エンドドラゴン!!タイムカプセルを発動し、デッキから一枚除外
しターンエンド」

歓声があがる。

初ターンからエースを捧めるのだから生徒としては嬉しいのだろう

サイバーエンドドラゴンが俺を見下ろす

「ふふん、流石はデュエルアカデミアが誇るデュエリスト!いくら
理事長推薦の生徒とはいえ、この状況を打開するのは難しいのでは
?」

「バーカ!ソラをあまくみんないでよね!」

楚螺life4000

手札6

「俺のターンドロー・・・アンタが機械なら俺はそれを宝石の力で破壊しよう。このターンで終わらせてやる」

歓声は俺の言葉を聞き、止んだ。

この世界の常識では4000の攻撃力を持つモンスターは強力、対処が難しいのだろ。どんな有利な状況でもひっくり変えることもあるのが俺がやってきた決闘だ。

「俺は手札のジェムナイト・ガネットとジェムナイト・ルマリンをジェムナイト・フュージョンを発動。2体を【宝石融合】。炎を宿す石よ。力を放て・・・宝石融合、『ジェムナイト・マティラ』を融合召喚!!」

灼熱の剣を持つ炎の宝石戦士が俺の前に立つ。

「そして俺は手札から闇の量産工場を発動し、墓地に存在するジェムナイトを2体を回収し、俺はジェムナイト・アレキサンドを召喚。リリースし効果発動。デッキからジェムナイトを1体特殊召喚。現れる、ガネット!!さらに墓地から魔法カードを発動!」

「墓地からデースト!?!」

「墓地から!?!」

「墓地からなんて・・・」

「俺の墓地のジェムナイトを除外してジェムナイト・フュージョンを回収し、融合!手札の以下省略!!雷を宿す石よ、力を放て・・・宝石融合!ジェムナイト・パーズを融合召喚。場には三体のモンス

ター、団結の力をマディラに装備。」

ATK2200 4600

技名どうしようかな・・・

「マディラで攻撃!!」

「くっ・・・」

「炎剣 爆裂熱風斬!!」

マディラの炎剣がサイバーエンドドラゴンを叩き斬る。

カイザーLife3800

「くっ、だがまだLifeは残る」

「いや、終わりだ。パーツは効果により二回攻撃することができ
る!そしてガネットも残っている。全軍進撃!!」

カイザーLife0

「やったー!!」

「マンマミーヤ」

会場がどよめき、ありえないと言う声も聞こえてくる。信じられな
いんだろうな

「くっ、リスペクトデュエルとはいえ、Lifeを削れなかったと
は・・・」

「満足だ!カイザー、楽しい決闘だった。」

俺はカイザーの前に立ち手を出す

「・・・ああ、俺も良い勝負になったと思っている。今度は俺がリ

ベンジをするよ。」

こうやって俺がカイザーと握手を交わしているなかでも会場は静まりかえっていた

「んじゃ！決着もついたことだし、俺は帰ります。」

「あとよろしく！クロノス！」

俺のあとに仕事をほっぽり出した神様と共に会場をあとにした。

?side

「スゴかったな、今のデュエル!!」

「う、うん。」

「どうやら君ではなく、彼が一番のようだな？二番君」

「うっ・・・だがあんなヤツとデュエルしてみたいなあ!!」

「時期にできるよ。あの人もきつと合格だろし、デュエルアカデミアで」

「うーん・・・わくわくしてきた!!」

第三話『キングは一人！カミちゃんなのだ！！ノリア充はフラグ乱立』

朝

ソラside

「う、うーん・・・携帯がなってるぞ、カミちゃん」

高級スイートホテル。隣のベットで寝ているカミちゃんは経費がないようで泣きながら野宿とか言い出したので相部屋で寝かした。

「あつ切れた・・・」

そして俺は自分携帯をチェック。

合否のメッセージは合格。時刻は集合の一時間前、天気は晴れ

昨夜は限界ギリギリまで調べたところ。

俺のデッキのシンクロは三つのディスクにより反応制限がある。時間軸的な意味で

現在の所持デッキはジェムナイトとインフェルニティ（ガンは一枚）
。どれもある程度制限に対応するようになっていた。

あとホテルマンさんが持ってきたお届けモノ。

複数のアタッシュケースの中のかんりのカード、あれはビビった。

ホテルマンさんもビビってたし

と、こんなところで情報整理終了。

カミちゃんは起きないから、少し外出してみるかと思って、私服を纏い近く散策を徒歩なう！

「・・・俺の世界と根本が違うよなあ、まあ楽しいけど」

呑気に公園歩いてきながら、暇な感じをアピールしていたのだがそこで人とぶつかっ相手不倒してしまった。

「ごめん！怪れない？」

「いえ、こちらこそ前をみていませんで・・・てっ！ああああ！」

俺と女の前には無数に散らばったカード。

「私のカード!？」

「ごめん！すぐに拾うね」

この世界はどんなヤツでもカード持ち歩いてんなあ

「はぁ・・・(涙)」

「だ、大丈夫？」

泣くなよ。カード落としたくらいで

「こんなんじゃない、今日の大会も負けちゃうかも・・・(涙)」

「?やる前から負けるなんて考えてたら、それは負ける。」

「えっ・・・すみません(涙)」また泣かせてしまった。めんどく

さいなあ（汗）

「んじゃ、君にラッキーカードをあげよう。今日君が勝てるように」
カードを集めて彼女にデッキを渡し、デッキケースから一枚のカードを見せる。本当は主体でデッキ作ろうと思ってたんだが

「【冥府の使者ゴーズ】だ。君を守り、今日の大会も勝たせてくれるはずさ」

「あっ、ありがとうございます！」

「んじゃ、頑張ってるね」

「あ……名前！名前を教えてください！」

「……ソラと言います。」

「ソラ、さんですね！！覚えましたよ、このご恩は忘れませんから……」

彼女は笑顔でお辞儀をしてその場から急ぎ去っていった。

「うーん……あっ！俺が名前聞くの忘れた……」

そして時間は過ぎ、

彼らと俺と神様はデュエルアカデミアへと向かう船に乗った。

潮風がキモチイイ……！ぜ

ソラside

「なあ、カミちゃん？」

「なに？」

「この世界はシンクロ召喚を知らないし、シンクロモンスターも存在しない。そしてもちろんチューナーも存在しない・・・でももし俺がシンクロのデッキを使えばどうなる？」

カミちゃんは隣で風に辺りながら少し考えている

「世界バランスが！アチヨンブリーケー！！だけどカミちゃんが修正し改竄すれば余裕。てかカミちゃんはシンクロデッキだ」

「神って言うくらいだから極聖？」

「あんなハジケリストのデッキじゃない！！」

中の人ネタですね。わかります。

「私のデッキはキングだあ！！」

「えっ、よりもよってファンデッキか！？」

「ファンじゃないもん！私がこの世界のキングになるのだ！！」

いや、あんたはキング以上に偉い存在だからな？

「んじゃ、俺もシンクロ使おうかなあ」

「何のデッキ？」

「インフェルニティ」

「・・・」

彼女は笑顔のまま硬直していた。そして思いきり頭を叩かれた。

「ワンキルゲーは死ね！！」

「痛いなあ・・・普通に戦えるように調整してあるからね？」

「ならヨシ！手始めに私と勝負するかい？」

目立ちたいのか目立ちたいのだろう。目が輝いてるもの

カミside

「いや、一番にあのデッキでなぶり殺しにするヤツは決まってるから」

「ええ・・・てか誰？」

「教えない」

なんか物凄いニコやかだな、てか再起不能まで叩き潰す気満々じゃん

「おお！いたいた！！」

階段から上がってくる赤制服の遊城十代たちと黄色い制服の一人は
三沢大地

「なあ、あんた111番だろ！オレとデュエルしようぜ！！」

十代は私を差し置き、ソラを指差し言い放つ

「パス・・・君と戦ってなんの利益がある。まあ、どうしてもうならこの理事長様を倒してからにしないさ」
私を前に押し出すソラ。なんか私、めんどごとくにあってる？

「なに〜！良いぜ！！じゃ、理事長さん！オレと決闘だ！」

「えっ・・・な〜んか〜、ソラの前座みたいな感じで気に食わないけど、良いわよ！遊城十代！受けてたっ」

私たちは船のステージに立ちデュエルを始めた。

「デュエル！！」

十代Life4000

「先行はオレが貰うぜ！ドロー、手札からクレイマンを守備で召喚し、カード二枚をセットしターエンド」
ステージでは上場に人が集まってくる。

カミLife4000

「観客がいてこそ。私の・・・キングのデュエルはエンターテインメントでなければならぬ！！私のターン、ドロー！手札からバイス・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚する。この効果で特殊召喚されたときバイス・ドラゴンの攻守は半減する。」

うおーと観客から声があがる。三沢と俺は遠巻きから観戦する

「レベル五の上級を特殊召喚とは・・・」

「だがアタッカーとしては死んでいる。」

「とは言えドラゴン族だ。サポート系が豊富だ。それに生け贄要因にもなりうる」

「さすがは三沢大地。初見ながらの鋭い観察力があるな」

「いや、俺はただありのままに言ったただけだ」

「デュエルアカデミアでの一番目の俺の相手はお前と言っつのはどうかな？」

「良いだろ。君とはぜひとも一度勝負をするつもりだった。受けて立とう、秋雨楚螺」

何話してんのよお。カミちゃんのデュエルを見なさい！！

「私は通常召喚権をまだ残しているわ！そして見せてあげる、この世で最も罪深い力を・・・私は手札からチューナーモンスターダークリゾネーターを召喚！」

マスコットキャラのような悪魔が音波をならし登場する。

「チューナーって・・・初めて聞くカードだな」

周囲の生徒も十代に同意

当たり前だ。この世界ではまだ存在してないだからとソラが呟いてる

「いきなりか・・・」

「なにがいきなりだ？」

ソラside

「お前たちははじめてだろ。．．．拝めるぞシンクロ召喚を」

「カミちゃんはバイス 5にチューナーモンスターダークリゾネーター 3をチューニング！」

悪魔が空中に三本の円を作り、そこ竜が通り抜ける。

「王者の鼓動！今ここに列をなす、シンクロ召喚！！我が魂、レットデーモンズドラゴン！！」

魔竜が羽ばたき、巨大なそれは十代の前に降り立った。

「なんだ今の！？シンクロ召喚??？」

生徒たちは理解できていない。そのシステムが世界に存在しないのだから困惑するの無理はない。が．．．

「すげえ！！すげえ！今のシンクロ召喚で言うのか？先生！！」

「そつだよ！ちなみにソラもするからよく覚えときなさい！！」

今度からインフェル確定か．．．

「お前にもできるのか？あのシンクロ召喚というもの．．．」

三沢はすこし困惑しながらも状況について知っている。さすがは天才

「前の二軍デッキでは無理だが、俺の本当のデッキはシンクロをメインにしている」

三沢「そうか・・・研究しなければな」

凄まじいやる気だな。

「続けてカミちゃんは！カードを二枚セットして、バトル！レットデーモンズドラゴンの攻撃！！アブソリュート・パワーフォース！！」

魔竜の手が炎を纏い、クレイマンを無へと破壊する。うおーっと歓声が上がった。うん、かっこいいな

「くっ・・・だがこの瞬間！ヒーローシグナルを発動！デッキからE-heroフェザーマンを特殊召喚する！！」

「んじゃ、コールリゾネーターを発動。デッキからリゾネーターを加える！私はクリエイトリゾネーターを手札に加え、エンド！」

「俺のターン！！俺は手札のEバーストレディとEフェザーマンを融合！！来い！フレイム・ウィングマン！！」

翼を纏う風戦士。かっこいいなあ、hero系は好きだなあ絵と口マンなカード多いし

「でもフレイム・ウィングマンの攻撃力じゃ私のモンスターは倒せないわよ！！」

「同じパターンだな・・・」

三沢はすでに気づいている。この前のクロノス教諭とのデュエルと同じ状況。

「heroにはheroの戦う舞台があるんだぜ！理事長さん！俺は『摩天楼・スカイスクレパー』を発動する！！」

海の景色が一転して深夜のビル街へと変わった。すごいカッコいいんだが

「これではheroは負けない。フレイムウイングマンで攻撃！スカイスクレイパーシュート！！」

ビルの長細い棒に立ち、月を背に魔竜を見下ろす、フレイムウイングマンが敵目掛けて突撃する

「十代の勝ちか・・・」

「いや、手札にはあれがあるからな」

「ふっ、私はスカーレット・オブ・レッドを発動。このカードが場に存在する限り、今後あなたは私に攻撃をすることはできない！」

フレイムウイングマンは静止し、十代のフィールドに降り立つ

「くっ・・・俺はスパークマンを守備表示にしてターンエンド！」

「私のターン！私は強欲な壺を発動！二枚ドロー！」

来たな、禁止カード。ドローウマーwwなドロー加速

「はっ！どうやらカミちゃんの勝ちのようだ（笑）私は手札からツイン・ブレイカーを召喚！そしてバトルフェイズ！エネミーコントロールを発動！コマンド上下ABでフレイムウィングマンを準備に！」

ああー、カミちゃんの勝ちか。さすがは神様、主人公補正にも負けないドロー運

「なっ、フレイムウィングマンが！？」

「それでツインブレイカーの攻撃！！地獄突き二連」

ツインブレイカーが素早い動きで2体のモンスターを破壊する。

「なんでフレイムウィングマンまで！！それになんでダメージが！？」

「ツインブレイカーは守備モンスターを攻撃した時に続けて攻撃できる。貫通効果持ちの優秀なモンスターだ」

俺の解説を聞いて納得する生徒一同。そして敗北を理解する十代

「くっ！！」

「沈め・・・レットデーモンズの攻撃！！」

ビル街の空中に飛び上がったレットデーモンズの手が炎に包まれる。

「アブソリュート・パワーフォース！！」

午後

十代との初戦はカミちゃんの勝利に終わり、十代は悔しそうにしていた。

その後船は無事島に着き、校長と理事長の話終わりは今は割り当てられたブルー寮の部屋で複数あったアタツシユケースを整理。

まさかとは思ったが神のカード三枚、邪神のカード三枚、幻魔カード四枚（内一枚はアーミタイル）とか地縛神カード六枚とか三極神カード三枚とか怖すぎるから封印

あとはアニメオリジナルがあった。嬉しいのはレットアイズ・スピリッツとか、一度使ってみたかったんだよなあカッコいいからでもレットアイズ使いは後々出るからなあ

あとまさかのエクシーズモンスター。希望皇ホープとかアポリアさんが嬉泣きしてそうだな、今んとこ数枚。今度のシンクロに変わるシステムが適用できるのかこの世界？、とか思っで見たりするのであった

そしてエクシーズも封印。今後があるなら使いたいな、ぜひ

「あの一・・・」

俺の部屋からいるはずのない女性の声！？まっさか！

「あの一・・・」

幻聴か、辺りを見回しても姿はない。俺は疲労でイッパイイッパイなのか

それとも俺の中で脳内彼女作成スキルが発生したのか？

「あー・・・あー！！聞こえてますか!？」

「うるさい！！なんだ！！どっから聞こえるんだ!？」

「ひっ、すみません!？」

女性の泣きそうな声に反応し、その方へと目をやると半透明な鎧の白い泣きそうな女性がいた。

「なっ!？」

正直言おう。可愛い、その泣きそうな顔がなお可愛さを引き立たせている。

「じゃなくて・・・君は誰か聞いてもいいかな？」

「や、やっと主様が私の話を聞いてくれましたあゝ（涙）昨日から何回声をかけたか・・・」

「主様とは・・・俺のことかな？」

自分を指差す俺。その女性はウンウンと二回頷く

「では主様！改めて自己紹介をさせていただきます！私の名はカイ

エン。兄である冥界の使者 ゴーズの対にして冥界の使者 カイエ
ントークンの精霊でございます!!」

素朴な疑問をひとつ。精霊は良い。ハネクリとかと同じだからだが
カイエンはトークンカードだぞ? トークンにも精霊は宿るのか!?

「私の原点は元々がちゃんとした設定があつたのでございますが、
何をトチ狂ったかKO AMIが私をゴーズのオマケにしたのです
!!許すまじ・・・いつか復讐を」

そう言つて拳を握る。

「と言うわけでよろしくお願いしますね!主様と一緒に住みお側に
いさせていただきます。愛妻と思つてくれてもかまいませんよ?」

「はあー!?!」

そんな感じで彼女は俺の部屋に居座ることになった。

カミside

「鮫ちゃん!おひさー!!」

「久しぶりです。お元気そうでなによりです」

お茶を差し出した机のソファに座りこむ

「ソラの件は悪かったね。ごめん、突然」

「いえいえ、実力には申し分ないですし！筆記の方も流石の成績でしたからね。問題はないですよ」

私と鮫島は一緒にお茶を啜る。「んじゃ、はい！成功報酬！！とお茶ありがと」

机に湯飲みと封筒をおき、私は校長室を出た。

「うーん・・・お茶飲んだらなんか食べたくなってきたなあ」

フラフラとブルー寮へと足を運び、ソラの部屋のドアを蹴り飛ばす

「ソーラーちゃん！飯食わせる！！」

中ではベットの上で半裸のソラと危ない表情の鎧女性

「！？ち、違つぞ！何を勘違いしてる！？」

「ふ、不潔だあー！！ソラのバカー！！」

「あらら、いちゃいましたね！お子ちゃま・・・んじゃ続きしますか主様」

「何を冷静に考えているカイエン！！お前のせいで大問題になりかもしれないんだぞ！？」

てへえって顔をする女性を殴りたいと思ったのは生まれてはじめて

だ。

「くっ……えっ？」ガチャ

片手に手錠。前に変態

「んじゃ手錠しましたんで逃げれませよ、主様〜ハアハア」

息が荒い。怖いぞ、なんだよお前は!?

こうなれば……デュエル脳だ

「くっ……デュエルだ!!勝つたら俺を解放しろ!!」

「んじゃ、負けたら私の思うままになってもらいますからね?」

今は了承して早く、あのチビ子を止めないと俺のアカデミア生活が
開始早々終わる!!

「デュエル」です。ライフは8000ですから

カイエンside

カイエンlife8000

「んじゃ、先行は貰いますよ?ドロー!」

あつは!!良い手札。主様を倒すにはちょうど良いかしら

「私は何もせず……どうぞ主様!存分に攻撃を」

「・・・ドロ！俺は三枚セットしてインフェルニティ・デーモンを召喚しターエンド。」

初ターンで手札を0にしていない、と言う事は伏せカードに何かあると見て間違いありませんね。

「ハリケーンが欲しいところですが・・・ならば私は二枚カードをセットしてエンド？」

「うぜえ・・・お前のエンドフェイズでインフェルニティ・インフェルノを発動！！手札を二枚捨て、デッキからインフェルニティ・リベンジャーとインフェルニティ・デストロイヤーを墓地におくる。そしてドロー！！」

さてそろそろ来ますかね。主様の墓地にはキーカードが落ちていていますし

「俺はインフェルニティ・ミラージユを召喚し、効果。このカードをリリースすることで2体のモンスターを召喚。現れる、インフェルニティ・ビートルとインフェルニティ・ネクロマンサーを特殊召喚する」

「どうぞ、お好きなように・・・」

「ならネクロマンサーの効果発動！！」

「いいえ、それは神が許しません！！モンスターを特殊召喚する効果を含む効果に対し神の警告を発動。2000lifeを払い、無効にして破壊！！」

カイエンLife6000

「くっ！・・・ならインフェルニティ・ビートルの効果発動。手札がゼロの時にデッキから同名モンスターを守備で特殊召喚。ターンエンド」

「ふふ、私のターン！私は主様のモンスターを2体をリリース！主様の前に現れなさい、溶岩魔神ラヴァ・ゴーレム！！」

「ミスったか・・・」

主様の前には溶岩を纏う魔神。私のフィールドは空。だがこれが私の先方。

「カード一枚セットし、私はミス・フォーチュンを発動。1500ダメージを与え！エンド。私のゴーレムちゃんを大切にしてくださいね。」

ソラLife6500

「痛えな、いらねーよ！俺のターン」

「その瞬間にゴーレムちゃんの効果を発動！1000バーン！」

ソラLife5500

「ちっ・・・ドロー！カードをセットしエンド」

攻撃も止まってちょうど良いです

「カードを一枚伏せてまたミス・フォーチュンを発動！1500バーンでエンドです。」

ソラlife4000

主様のライフがかなり削れました。これで私とのライフ差は2000。このまま押しきります

「・・・」

なぜか尋常ではない異様で巨大な殺気を感じるのですが

「いい加減しろよ・・・」

「ひっ（涙）主様がちよー怖いです!!」

「誰のせいで・・・怒ってると思ってたんだ!!ドロー!ダーク・バースト発動!ミラージユを回収し、召喚!!ミラージユ」

地から現れ、ヒラリと回り私にお辞儀をするミラージユ

「リリース!!来い、シモベ共!!」

ビートルとネクロマンサーが現れ、ネクロマンサーがデーモンを呼ぶ

「トラップ発動!!洗脳解除!!この効果でゴーレムは私のもとに戻ります!壁として」

これで何とかするしかない・・・

「ふっ、俺はデーモンの効果を発動。手札が0の時、デッキからイ

ンフェルのカードを一枚手札にする。俺はインフェルニティ・ガンを加える」

ああ、どうやら主様を本気で怒らせてしまったようです

「俺は！インフェルニティ・デーモン4とネクロマンサー3にチューナービートルをチューニング！！霧に伝わる魔物よ、今こそ全てを天に返したまえ！！シンクロ、舞えミスト・ウォーム！！」

私のゴーレムと洗脳解除がバウンスされた！！くっ

「インフェルニティ・ガンを発動！オアリリース！！シモベ2体蘇生！！以下略」

そして彼は私の前にまた同じモンスターを並べる。

「・・・そしてデストロイヤーを捨てワン・フォーワンを発動しデッキから2体目のミラージユを特殊召喚！」

「その子は特殊召喚できないはず！？汚いですよ」

「あほ・・・コイツは墓地からは、だ！デッキや手札、除外される場合も可能・・・現れる、ミラージユ！！そして手札抹殺を発動捨てな・・・」

「あっはは（涙）」

私のゴーズとラヴァゴーレムと洗脳解除が手札から墓地に行き、三枚ドロ―

「シネ!」

「ぶぎやー!」

その後彼は全速力で走り、幼女を止めたがすでにその話は広まり、彼は一日にして天上院吹雪とならぶプレイボーイとなったのはいうまでもない。

第四話『超急展開シリアスでビツクリだよ!?!』(前書き)

いきなりシリアス

マジごめんorz

だが反省はしてない。

オリキャラ登場

橘エリカ

デッキ

『戦士シンクロ』

第四話 『超急展開シリアスでピツ　クリ　だよ!?!』

翌日

ソラ side

最悪だあ

授業ではクロノス教諭にはバカにされるわ。男女とわず敵視するわ。唯一話かけてくれた三沢と十代だけ今はレッド寮の大徳寺先生の授業

「はあー・・・」

「ソラ君、聞いてるかにゃ？」

「はい。錬金術は等価交換で対価を指定してそれに見合うものを錬成する術式、デュエルモンスターズで例えるなら融合である・・・でしたか？」

「大正解です。疑って悪かったにゃ」

十代は向こうの方で寝てるし、他の生徒は寮を問わず俺を睨んでるし三沢は・・・ちゃんと真面目に聞いているな流石だなあ
帰りにえ・・・

「ふーん・・・やる気ないね、さすがは二代目天城院吹雪」

後ろの女に笑われた。うぜえ、てか誰だよ。

「あなた・・・誰？」

「私は流離いの剣士！橘エリカ」

厨二病患者か・・・またやっかないやつに絡まれた。ブルー制服なのは、女子だからだな

「橘さん！声を出しすぎだにゃ」

大徳寺先生が注意し、橘は大人しくなった。周りで小さく笑う他生徒。まあ無理もないか

「んでえ、そのアンタが俺になんのような？」

「この前のデュエルみたわ・・・私とデュエルしない？秋雨君」
「却下。デュエル脳乙」

「ムカツ（逃げるんだあ）」

なんだこの女。一体なにが目的だよ。

「女の子が誘ってるのに！断るなんて男としてどうかしてるわよ！
？二代目」

「うるさいよあ、頼むから静かにしてくれえ！」

「ソラ君、橘さん！静かにするのじゃー！..」

十代side

「ソラのヤツまた女子に絡まれてるなあ（失笑）」

「妬ましいスね、兄貴」

「あつ、アハハ。そうだなあ・・・」

「さすがにアイツが可哀想になってきたよ」

そんなとき、チャイムの音ソラは一目散に教室から逃げ出した

「あつ、まてえ！秋雨ソラ！！」

「くつ、構ってられるか！！」

だが彼女橘はその日事あるごとにソラの前に現れてはデュエルを強要するのである

「秋雨！デュエルだ！！」

「デュエルするぞ！」

「デュエルしろー！！」

「だああああああ！！構ってられるか！！！！」

三沢 side

「災い難しく、災難となる。昔の人はよく言ったものだ。こんな夜にまで追い回されるとはな」

時刻は九時を回って少したった時間だ。秋雨ソラ災難と戦う男

「はああああ・・・すまない。部屋に居座ってしまって」

「気にするな・・・その代わりに君のデッキの一端を見せてもらう
と言う約束だしね」

なぜ三沢に見せるのかと言うと俺は三沢大地が結構キャラ的に好き
なので是非とも強くなつて欲しいからである

というわけでシンクロを教えて、俺はコイツを強くする。題して【
三沢育成計画】

「んじゃ、始めるぞ。ここにシンクロのカードが入ったファイルが・
・んっ?」

「ファイルなら橋エリカが持って行つてたぞ。ついさっき」

えっ?なぜ止めないとうかなぜ俺に即刻知らせない!!

「三沢・・・おまえ、」

「お前のデュエルがもう一度みたくてな、お前を誘い出すプランも
渡しておいた。」

「てめえ!!何してくれてるんだあ!!」

そんなこんなで三沢から手紙を貰い、現在校内のデュエル場に来た
のだがどうやら先客いたらしい

「万丈目準と・・・遊城十代のデュエルか?」

そういえばやつてたなあ・・・十代がたぶん負けたデュエル

「相手側にフレームウィングマンがいるな、強制転移か」

「・・・」

その後なぜかいた天上院明日香が警備員の足音を聞き、十代たちにそれを知らせ彼らは俺たちを残し去った

「・・・いらつしやい。秋雨ソラ」

「来たくて来た訳じゃない」

「素直じゃない・・・まあ、良いけど本題のモノはここにあるわ」

ファイルを三沢に投げる橘。さつさと終わらせたいなあ

「んじゃ、サクッと勝って帰るぞ」

「それができるのならね」

「デュエル！」

l i f e 4 0 0 0

「俺のターン！！俺はモンスターをセット！！エンド」

l i f e 4 0 0 0

「私のターン！！ドロー」

エリカ s i d e

まあまあかなあ、デッキ内容もわからないし、でも動きは良い！！

叩き潰してやるんだから

「私のターン！戦士ラースを召喚！！効果発動！彼が召喚された時にデッキから一枚の戦士を選択しデッキをシャッフル、その後を選択した戦士をデッキトップにおき、カードを二枚セットでエンド」

「戦士か・・・俺のターン！さらにモンスターをセットしカード一枚セットでエンド」

不気味すぎるけど、始めますか・・・
剣士の絆の力を見せてやるわ！！

「ドロー！私は手札の切り込み隊長を召喚！さらに効果発動！！切り込み隊長2体目を特殊召喚！！切り込みロツク始動！！そして一族の結束を発動！！！」

2体の剣士が闘気放ち、攻撃力が上昇する

「あれは・・・」

「なんだあのカード初めて見るが・・・」

「ふふ、このカードは墓地に場の同族と同じモンスターが存在するとき攻撃力を800アップする。もちろん知ってるわよね、秋雨ソラ？」

ソラ side

「・・・お前面白いカード持ってるな」

「あなたなら使い方も用途も理解しているでしょ？秋雨ソラ」

あの女・・・気になるな。俺が転生者だと知っているのか。

「さらに連合軍を発動！！攻撃力さらに増す」

ATK2600×2体とATK3000×1体か・・・これはマズ
かもな

「2体で攻撃切り込み斬！！」

剣撃で2体の裏側のモンスターが倒される。

「効果発動！1体目メタモルポット」

「くっ、手札が！！」

良いカードがあつたようだが残念だな

「2体目、ジエム・タートル！デッキからジエムナイト・フュージ
ョンをサーチ」

三沢side

「形勢は五分五分といったところか・・・」

だがソラはすでにメタモルの効果で墓地にジエムナイトが三体送ら
れた。このあとの融合連発は確定している

「戦士ラーツで攻撃！！」

life1000

「くっ・・・」

「エンドー!」

「ドロー、俺は手札からジェムナイト・アレキサンドを召喚しリリース」

これでソラはデッキからサファイアを呼ぶ。

「手札に存在するジェムナイト・ルマリンとサファイアをジェムナイト・フュージョン!!輝け、ジェムナイト・パーズ!!」

エリカside

マズイ!?パーズの効果は二回攻撃+破壊したモンスターの攻撃力分の追加ダメージ。モンスター破壊系カードと攻撃力を上げるカードがあるならクロノスの二の舞になる!!

life2000

「畏発動!!神の宣告!!パーズには場に出させない!」

「ふっ・・・危なかったな、今の止めなかったらお前負けてたよ・・・」

内心ひやひやだわ!!ちょーこわいよ。デッキの回し方が異常だ!!

「まあ、良いや!切り込み隊長2体だけは倒していくか・・・闇の量産工場発動。ガネットとルマリンを回収し、アレキサンドを除外しフュージョンも回収しそのまま融合!!輝き満ちて、現せ!ジェムナイト・フュージョン!!」

2体のモンスターが交わり、そこからランスを持つ宝石騎士が現れる

「ジェムナイト・プリズムオーラ!!」

「三体目のジェムナイトか・・・」

「サファイアを除外し、フュージョン回収でeffect発動!手札のジェムナイトと名のつくカードを捨て相手の表側表示カードを破壊する!!サンダー・ショット」

負けたくないな、負けたく・・・

「・・・」

ランスを構えたプリズムオーラが切り込み隊長1体に突進し、貫き刺し破壊し

ATK3250

「プリズムオーラに団結の力を装備!!切り込み隊長に攻撃!ボールテイク・ランス」

2体の切り込み隊長を破壊したプリズムオーラは孤高でその場に立っている

life1150

「・・・」

「どうした?サレンダーするか・・・」

「あなた・・・殺すわ。粉碎するわ壊すわ破壊するハカイする!!私のターン!!!私は戦士の生還を発動!!!」

そう闇のゲーム

「・・・三沢。離れる・・・」

「様子が可笑しいな・・・わかった。」

倒すのではない。破壊するすべて無にする

今の私には眼前に敵は無し、あるのは内包するコワス衝動のみ！！

「現れなさい・・・切り込み隊長。effect発動、共闘するランドスターの剣士を特殊召喚！！」

エリカの胸元のペンダントが輝く。

「チューナーモンスター・・・やはりな」

「そして私は墓地の戦士の生還を除外し！！マジックストライカーを特殊召喚・・・レベル3の切り込み隊長とレベル3のマジックストライカーにレベル3の共闘するランドスターをチューニング！！ふふっ・・・さあおいで、破壊して！！あなたの思うままに、全てを！！」

レベル9・・・

決闘場が氷結する眼前には美しく禍々しい三つ首の竜がこちらを見下している

「氷結界の龍 トリシューラー！！」

ソラside

「なんだこれは！ソリットビジョンが現実に！？」

三沢が動揺する。さすがの俺でも気持ちはわかる

「逃げる、三沢！！マジでヤバイ・・・」

闇のゲーム。二日目にして体験することになるとは・・・トリシューラか

「トリシューラのeffect発動。墓地・手札・場のカード三枚まで除外する！！フリージング・ロスト」

トリシューラが咆哮をあげ吹雪が起こる。

「ぐっ・・・」

三枚が選択され氷、私はそれを粉碎した。

「あはは、死刑！」

トリシューラが氷結の息吹を放つ。

「レットデーモンズ！！」

氷結の息吹はレットデーモンズの羽ばたきでかき消され、ソラの後ろから神ちゃんが現れた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0845r/>

神様と転生！決闘録

2011年10月8日04時40分発行